

森林
病害虫

地域の特産品、キノコを害虫から守る

～ シイタケ原木栽培・マンネンタケ栽培害虫 ～

研究目的

森は我々に様々な恵みを与えてくれます。なかでも特用林産物として位置づけられるキノコ類は重要な産物で、地域の特産品として様々なキノコ栽培が行われています。これらのキノコが栽培されるにつれ、これまで本県では発生を見なかった虫害が発生するようになりました。本研究ではキノコの主要害虫の被害実態や生態を明らかにして防除技術を確立するための調査を行いました。



ハラアコブカミキリにより食害されたシイタケ原木。



ハラアコブカミキリの拡大状況。西部から東部へと被害地が拡大します。



マンネンタケを食害するカタボシエグリオオキノコムシ。内部を幼虫が食害する。



食害を受けているマンネンタケ。大きく成長しないため収量が少なくなる。

研究概要および結果

○シイタケ原木害虫のハラアコブカミキリの生息調査を実施し、県西部から中央部まで被害が拡大していることが解りました。市販されている生物農薬、ボーベリア・ブロンニアティ製剤による殺虫試験を野外網室で行い、春期に原木上に製剤を設置することによって、設置後14日以内に90%以上が殺虫でき、高い駆除効果を認めました。また、被害が発生しているシイタケ栽培地において、原木へ製剤を設置してカミキリの原木への加害(産卵)状況を調査した結果、製剤を設置したものは、設置しないものに比較して産卵数を40%に低下させることができました。

○マンネンタケを食害するカタボシエグリオオキノコムシの被害実態を調査して生活史を明らかにしました。成虫はマンネンタケの子実体が伸長して地上部に現れる発生初期に子実体に産卵し、孵化した幼虫が子実体内部に食入して甚大な被害が発生します。このため、この時期に成虫の産卵を回避することが効果的な防除法で栽培地全体のネット被覆が有効であることが解りました。

成果の活用

研究成果をもとに、シイタケ原木生産者、マンネンタケ生産者への害虫防除技術の普及を図ってゆきます。

新たなキノコ害虫の発生場所は常に移動し、拡大します。今後も被害先端地でのモニタリング調査を実施するとともにその防除方法を研究し、栽培者へ早期に普及することによって地域の特産品が安定して生産できるようになります。



ハラアコブカミキリの駆除。ほだ木の上に置いた天敵微生物製剤に接触・感染・死亡させる。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

所属グループ 森林保護育成グループ

担当研究者 福井修二(ふくい しゅうじ)

問い合わせ先 0854-76-3822

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: 緑化木・キノコの病害虫防除技術の確立に関する研究(研究期間:H15~19)